

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械工作法	平成27年度	南部 紘一郎	2	通年	履修単位2	必

[授業の目標]

機械技術者として必要な工作技術やその応用などを学びながら，機械設計などで必須となる技術者センスを身に付ける．また，工作機械の構造や刃物・機械要素などの工作に必要な全てに関する基本的な知識を習得する．

[授業の内容]

すべての内容は，学習・教育目標（B）＜専門＞に対応する．

（前期）

- 第1週 機械の作りと工作法
- 第2週 機械材料（機械的性質）
- 第3週 機械材料（結晶構造）
- 第4週 機械材料（鉄鋼材料）
- 第5週 機械材料（非鉄金属，非金属材料）
- 第6週 鋳造（鋳造法）
- 第7週 鋳造（溶解）
- 第8週 中間試験
- 第9週 溶接
- 第10週 接合
- 第11週 塑性加工（素材加工）
- 第12週 塑性加工（成形加工）
- 第13週 切削加工（工作機械の種類）
- 第14週 切削加工（切削工具について）
- 第15週 切削加工（切削加工の効率化について）

（後期）

- 第16週 砥粒加工（研削加工）
- 第17週 砥粒加工（研磨加工）
- 第18週 特殊加工
- 第19週 表面処理
- 第20週 コンピュータを利用した設計・開発
- 第21週 NC工作機械について
- 第22週 NC工作機械の制御
- 第23週 中間試験
- 第24週 産業用ロボット
- 第25週 工場の自動化
- 第26週 計測の基礎
- 第27週 実際の計測方法
- 第28週 設計から生産までの生産管理
- 第29週 管理システム
- 第30週 環境と生産システム

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械工作法（つづき）	平成27年度	南部 紘一郎	2	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械が発達してきた流れを具体的な製品とともに理解できる。 2. 機械材料の機械的性質，結晶構造を説明できる。 3. 鉄鋼材料の特性について説明できる。 4. 非鉄材料，非金属材料の特性について説明できる。 5. 鑄造における鑄造法，材料の融点を説明できる。 6. 成形加工について説明できる。 7. 切削抵抗について説明できる。 8. 切削工具について説明できる。 9. 切削加工への影響因子について説明できる。 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 砥石について説明できる。 11. 仕上げ加工について説明できる。 12. PVD, CVD について説明できる。 13. 工作機械の制御と実際の方法について説明できる。 14. コンピュータを利用した設計・開発について説明できる。 15. 産業用ロボット，生産の自動化について説明できる。 16. 計測の基礎と，実査記の計測について説明できる。 17. 管理システムについて説明できる。 18. 環境と生産システムについて説明できる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>産業界で使用されている基本的な工作法を理解し，その概要を図などと共に記述できるとともに，機械技術者としての基本的な技術用語を理解して記述することができ，その利用例などを説明出来る。</p>	<p>[達成目標の評価方法]</p> <p>「知識・能力」1～18の確認を小テスト・課題，前期中間試験，後期中間試験，前期期末試験，学年末試験で行う。1～18に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] この科目ではものづくりにどのような方法、機械が使われているかを理解することが重要である。本科目は後に学習する機械加工学，機械設計法の基礎となる科目である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 機械工作実習で取り扱った工作機械に関すること。機械工学序論で経験した製作品完成までの具体的な方法など。</p>	
<p>[レポート等] 必要に応じて課題提出を実施する。</p>	
<p>教科書：「新機械工作」（実教出版） 参考書：「図説機械用語辞典」（実教出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を80%，小テスト・課題提出の結果を20%として，それぞれの期間毎に評価し，これらの平均値を最終評価とする。ただし，前期中間・期末および後期中間の評価で60点に達していない学生のなかで，平均点の半分以上の点数の学生については再試験を行い，再試験の成績が該当する期間の成績を上回った場合には，60点を上限としてそれぞれの期間の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。学年末試験についての再試験については実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>課題を全て提出し，学業成績で60点以上を取得すること。ただし，60点以上の学業成績において課題提出のない時は，59点以下の評価とする。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械工作実習	平成27年度	打田正樹 南部紘一郎	2	通年	履修単位3	必

[授業のねらい]

現代技術の基礎となっているものは、古くから伝承された技巧によることが多い。実際の図面により加工を行ったり、分解により機構を学びながらモノ作りの基礎となる創造力を養う。あわせて工具名称や機械の操作方法についても習得する。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標(B)＜専門＞に対応する。
クラスの人数を5班に分け、それぞれの班が1 - 6の項目について基礎的な知識と作業を習得する。
(下記に示したのは第1班の作業順序の例である。)

1. 機械加工実習

簡易アジャスタの製作

第1週 素材の準備(材料の切り出し)

第2週 図面の把握と外周切削

第3週 図面の把握と切削加工(継続)

第4週 図面の把握とボール盤加工

第5週 図面の把握とボール盤加工

第6週 塗装および講評

2. NC加工実習

NC旋盤による加工基礎

第1週 NCプログラムの作成手順

第2週 NCプログラム作成およびデバッグ

第3週 NC旋盤による加工シミュレーション

第4週 小型NC旋盤によるプログラミング

第5週 小型NC旋盤のプログラミングとデバッグ

第6週 小型NC旋盤のプログラミングとデバッグ

3. メカトロニクス

電子部品の種類と特性

マインドストームによる簡易ロボットの製作

第1週 マインドストームロボットの製作

第2週 自律移動型ロボットのプログラミング

第3週 自律移動型ロボットによる競技

第4週 電子部品とはんだ付けの基礎

第5週 回路作製(1)

第6週 回路作製(2)

4. エンジンの分解・組立と溶接

ガソリンエンジンの分解と組立て

第1週 ガソリン機関の分解(1)

第2週 ガソリン機関の分解(2)

第3週 ガス溶接による隅肉溶接

第4週 溶接による試験片の製作

第5週 溶接による試験片の製作

第6週 概観写真撮影および万能試験機による強度試験

5. CAM加工

3次元CADと専用加工機を用いた部品箱の製作

第1週 CAMの基礎知識・ソリッドワークスの操作説明

第2週 ソリッドワークスによる部品作成(1)

第3週 ソリッドワークスによる部品作成(2)

第4週 ソリッドワークスによるアセンブリ作成

第5週 ソリッドワークスによるアセンブリ作成

第6週 CAM加工による小物部品の製作・小型多機能旋盤による
鵜部品の製作

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械工作実習（つづき）	平成27年度	打田正樹 南部紘一郎	2	通年	履修単位3	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図面を読み取りながら旋盤加工を行うことができる。 2. ポール盤作業とねじ切り作業を行なうことができる。 3. 小型NC旋盤加工の流れを理解できる。 4. NC旋盤のためのプログラムを作成できる。 5. 試験片の溶接強度を調べることができる。 6. 溶接強度試験について理解できる。 7. 歯切り盤により平歯車を加工することができる。 8. 電子部品の種類と特性を理解することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 9. マインドストームを使用したロボットを製作できる。 10. マインドストームを使用してプログラム通り動作確認することができる。 11. 半田付け作業を理解して簡単な回路製作ができる。 12. 基本的な論理IC回路を理解できる。 13. ガソリンエンジンの構造が理解できる。 14. 分解と組立ての要領と工具が理解できる。 15. 3次元CADによる図面作成と加工の手順が理解できる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>機械技術者に必要な工作機械の操作を行なって、与えられた図面により、加工精度を考慮した加工が出来るとともに、電子機械の基本的な知識から、回路図を解説して基板を製作、分解や組立ての要領を把握して、ガソリンエンジンの仕組みを理解することが出来る。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>機械工作に関する「知識・能力」1～15についての報告書の内容、前期・後期に実施する2回の期末テストにより評価する。「知識・能力」の各項目の重みはほぼ同じである。満点の60%の得点で、目標の達成を確認する。</p>
<p>[注意事項] 質問があればその場で行うこと。実習服および帽子・安全靴、安全メガネの着用は必ず守ること。授業中は常に実験実習安全必携と筆記用具を携帯して、安全な服装で受講すること。</p> <p>また、本教科は後の総合実習、創造工学演習、卒業研究などの基礎となる教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 1学年の機械工作実習に関する知識を十分理解しておくこと。</p>	
<p>[レポート等] 授業内容をまとめ、夏期、冬期休業後の授業時に提出すること。</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期末・学年末試験（40%）および普段提出する報告書内容評価（60%）として総合的に評価を行う。再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>総合成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
情報処理	平成27年度	岡 芳樹	2	前期	履修単位 1	必
<p>[授業のねらい]</p> <p>情報処理 の講義を踏まえ、プログラミングを通して情報を利用・活用できるようにする。</p>						
<p>[授業の内容]</p> <p>全ての内容が<基礎>の学習目標にも対応する。</p> <p>第1週 ガイダンス、アルゴリズムの使い方</p> <p>第2週 アルゴリズムによる連続実行、条件分岐、繰り返し</p> <p>第3週 Processing の使い方、グラフィックスの基礎</p> <p>第4週 変数、式、算術演算、サブルーチン</p> <p>第5週 条件分岐、論理演算、イベント処理</p> <p>第6週 繰り返し、色の表現</p> <p>第7週 条件分岐と繰り返しの復習、数値計算</p> <p>第8週 中間試験</p>			<p>第9週 配列、線形探索、二分探索</p> <p>第10週 二次元配列</p> <p>第11週 平均値、分散値、ファイル入出力</p> <p>第12週 画像の描画</p> <p>第13週 アニメーションの基礎</p> <p>第14週 物理シミュレーション</p> <p>第15週 情報の視覚化</p>			
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. プログラムは連続実行、条件分岐、繰り返しからなることを知っている。</p> <p>2. 連続実行、条件分岐、繰り返しを含むプログラムを書ける。</p>			<p>3. プログラムに書かれた処理の流れを追跡できる。</p> <p>4. 基本的なアルゴリズムについて、処理の目的と手順、結果を説明できる。</p>			
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>情報処理 の講義を踏まえ、情報を利用・活用するための基本的なプログラムを書くことができる。</p>			<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～4を中間試験、期末試験、小テスト、課題で確認する。これらの合計得点が満点の60%以上であれば、授業の目標を達成したと判定する。</p>			
<p>[注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本教科は後に学習する「情報処理応用」の基礎となる科目である。 ● 特に指示が無い限り、情報処理センター演習室で講義を実施する。 ● 本教科では、プログラミング言語としてアルゴリズムと Processing を用いる。 ● 授業の進行状況に応じて、授業内容を一部省略、追加することがある。 						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>本教科の学習には「情報処理」の習得が必要である。</p>						
<p>[レポート等] 適宜小テストと課題を課す。詳細は授業時に説明する。</p>						
<p>教科書：特に指定しない。必要な資料は随時配布する。</p> <p>参考書：『Processingをはじめよう』(Casey Reas, Ben Fry 著, 船田巧訳, オライリージャパン)</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間試験と前期末試験の結果の合計を60%、課題(小テスト、宿題など)の評価を40%として加重平均し、100点満点で換算した結果を学業成績とする。再試験は実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>						

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械設計製図	平成27年度	藤松 孝裕	2	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

機械設計製図は、機械技術者となるためには必須のことであって、機械製図に関する知識・技能を充分修得する必要がある。そこで、本科目においては、日本工業規格の設計製図を活用できる能力を身に付けるとともに、設計製図の総合的な能力を修得することを目的としている。

[授業の内容]

前期・後期を通じて、
すべて学習・教育目標すべて (B) <専門> に相当している。

前期

- 第1週 面の肌，寸法の許容限界
- 第2週 はめあい
- 第3週 幾何公差とその図示方法
- 第4週 製作図の作り方，材料記号
- 第5週 設計製図の意義と留意点
- 第6週 支持台の製図
- 第7週 締結要素に関する説明
- 第8週 中間試験
- 第9週 締結要素の製図
- 第10週 締結要素の製図
- 第11週 締結要素の製図
- 第12週 締結要素の製図
- 第13週 締結要素の製図
- 第14週 歯車の基礎知識と設計に関する説明
- 第15週 歯車の設計製図

後期

- 第1週 歯車の設計製図
- 第2週 歯車の設計製図
- 第3週 パイスのスケッチ
- 第4週 パイスのスケッチ
- 第5週 パイスのスケッチ
- 第6週 パイスのスケッチ
- 第7週 パイス（組立図）の製図
- 第8週 中間試験
- 第9週 パイス（組立図）の製図
- 第10週 パイス（組立図）の製図
- 第11週 パイス（組立図）の製図
- 第12週 パイス（部品図）の製図
- 第13週 パイス（部品図）の製図
- 第14週 パイス（部品図）の製図
- 第15週 パイス（部品図）の製図

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
機械設計製図(つづき)	平成27年度	藤松 孝裕	2	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面の肌および寸法許容限界が理解できる. 2. はめあいの意味を理解し, その応用を習得している. 3. 公差と図示方法が理解できる. 4. 材料記号を理解し, その応用を取得している. 5. Vブロック等の基本製図を行い, 製図法を復習している. 6. 基本的な締結要素の種類, 規格を理解し, 図示できる. 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 歯車の基本的な知識(モジュール, 基準円直径, 減速比等), ならびに種々の歯車の概要を理解し, 与えられた条件から歯車を設計し, 製作図を作成できる. 8. 機械部品の現品(パイソ)の構造を理解して製作図を作成できる.
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>機械設計製図の基礎知識を理解しており, その知識をもとに, 現品からの寸法取りをしてスケッチおよび製作図を作成できる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～8の確認を, 提出された図面, 前期中間試験, 前期末試験, 後期中間試験および学年末試験で行う(評価基準の詳細は[学業成績の評価方法および評価基準]に示す). 満点の60%の得点で, 目標の達成を確認する.</p>
<p>[注意事項] 本科目は5年間学ぶ機械設計製図の一部である. 本教科では, スケッチおよび製図を描くときには, 以下の三要素に注意して描くこと.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正確さ・・・図面によって品物を製作するわけであるから当然のことである. 2. 明瞭さ・・・図面が設計者の意図を他の人に伝える役割を果たすことから, 明瞭に描かれた図面ほど読み誤りをすることが少なくなる. 3. 迅速さ・・・図面ができなければ生産の計画もたたず, 納期の遅れにつながるからである. 	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>1学年で学んだ機械設計製図(三角法, 尺度, 線および寸法線等)の基礎知識を必要とする.</p>	
<p>[レポート等] 原則的には報告書の提出は行わない.</p>	
<p>教科書: 「機械製図」 林 洋次 他7名著 (実教出版)</p> <p>参考書: 「基礎製図練習ノート」 関口 剛著 (同上)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>下記のように評価する. 4回行うすべての試験において, 再試験は実施しない.</p> <p>前期: 中間 検図10%, スケッチ40%, 中間試験50%によって前期中間の成績とする.</p> <p>前期末 締結要素の製図60%, 検図10%および前期末試験30%によって得られた成績と, 中間での成績と平均する.</p> <p>後期: 中間 歯車の製図60%, 練習ノート10%および中間試験30%によって, 後期中間の成績とする.</p> <p>学年末 パイソのスケッチ10%, 製図70%および学年末試験20%によって得られた成績と, 中間での成績との平均点によって後期の成績とし, 前期末の成績と平均する.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上述の学業成績の評価方法によって, 60点以上の評価を受けること. ただし, 学年末時の評価に関しては, 1年間を通じてすべての図面等の提出を前提としているため, 未提出課題が1つでもある場合には, 単位未修得とする.</p>	